



# 各スタイリングにおける スタイリングイメージの認識の特性の検討

文化学園大学 杉田 秀二郎

(一社)日本ファッションスタイリスト協会 あいざわあゆみ

<「繊維製品消費科学」(日本繊維製品消費科学会)2024年65巻3号 p.216-222より>





研究課題名	スタイリングイメージの差異によるスタイリングの妥当性の検討		
論文名	各スタイリングにおけるスタイリングイメージの認識の特性の検討		
	氏名	所属研究機関・部署・職	役割分担等
研究代表者	杉田秀二郎	文化学園大学・総合教養・教授	研究統括 ・研究計画の立案 ・調査設計 ・データ分析
研究分担者	あいざわあゆみ	一般社団法人 日本ファッションスタイリスト協会・ 代表理事	・スタイリングの監修 ・調査対象者の取りまとめ



# 1. 目的

- 専門家によるスタイリングの認識の特性(一般の人々よりもイメージ通りのスタイリングと判定できること)を検討
- 仮説
  - 学習経験の有無により、スタイリングイメージの判定の仕方が異なるのではないか

(研究および調査方法について、文化学園大学研究倫理委員会の承認済み)



## 2. 方法

---

### ■ 対象

- ファッションのコーディネートを専門的に学んだ経験のある者となない者、計325名
- (美容師、販売員、スタイリスト、美容室の客)

### ■ 期間

- 2022年1月

### ■ 実施方法

- Googleフォームで調査票を作成し、主として美容室を通して依頼して各自がそこにアクセスして回答



- 調査票(アンケートフォーム)
  - 属性:性別・年齢・職業・資格
  - ファッションに関する学習の有無
  - ファッションへの関心の程度




## ■ スタイリングイメージの判定

- 12種類のスタイリングイメージ(写真)を提示し、そのイメージを最もよく表すワード、2番目によく表すワード、3番目によく表すワードを選択
- さらにその1番目、2番目、3番目の要素が含まれる程度を5段階で判定



# スタイリングイメージ(12種類)

- (アクアティスト)
  - フェミニン
  - ロマンチック
  - ベーシック
- (クリスタルティスト)
  - フォーマル
  - ハード
  - ロック
- (ブライトティスト)
  - カジュアル
  - ガーリー
  - スポーティー
- (アースティスト)
  - クラシック
  - エスニック
  - ワイルド

- 
- 分析方法
    - 単純集計
    - (学習経験の有無別の)クロス集計で比較
    - 学習経験の有無で2グループに分けて比較
      - 学習経験あり(学習群)・学習経験なし(非学習群)
      - スタイリングイメージの判定の仕方が異なるか否か(分散分析)



## 4. 結果

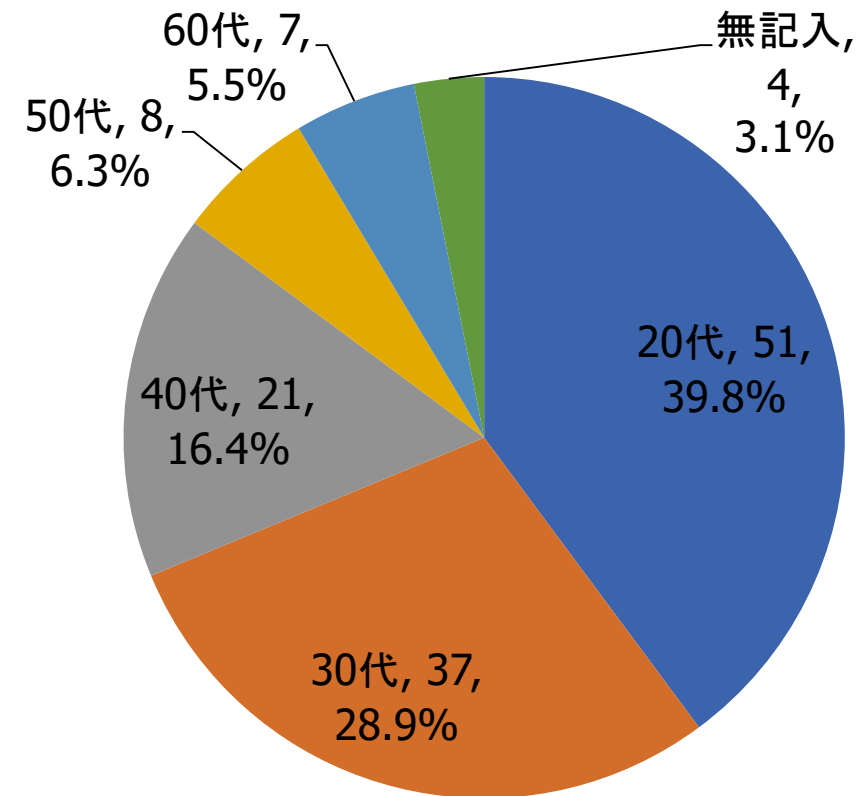
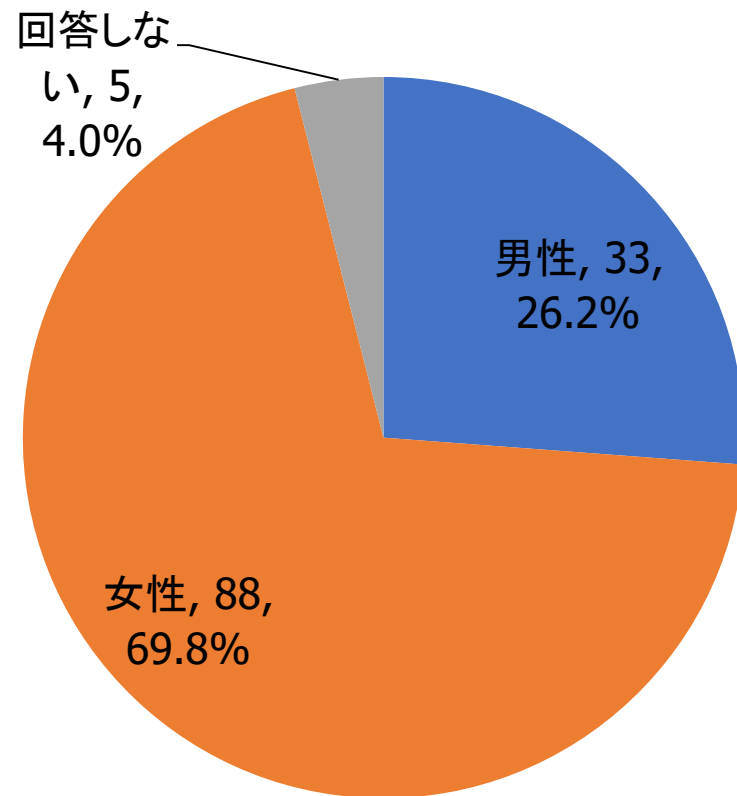
### ■ 回答者の属性

- 回答者数 128名/325名(回収率39.4%)
- 性別 男性33名 女性88名 不回答3名
- 年齢 20~67歳(平均35.0歳 標準偏差11.8)
- 職業 美容師81名(63.3%)
- 資格 スタイリングマッパ16名(12.5%)
- ファッションに関する学習の有無(あり37名 なし89名)
- ファッションへの関心の程度
  - 3が中間



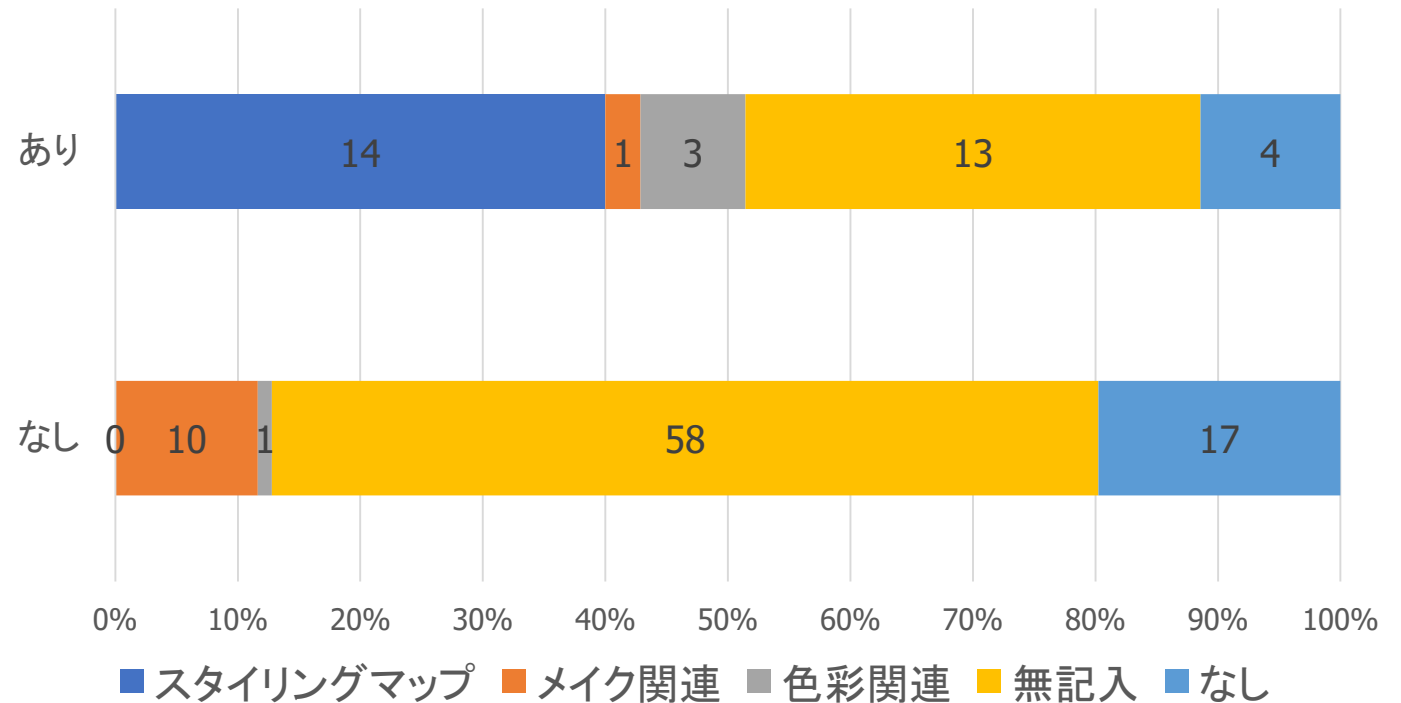
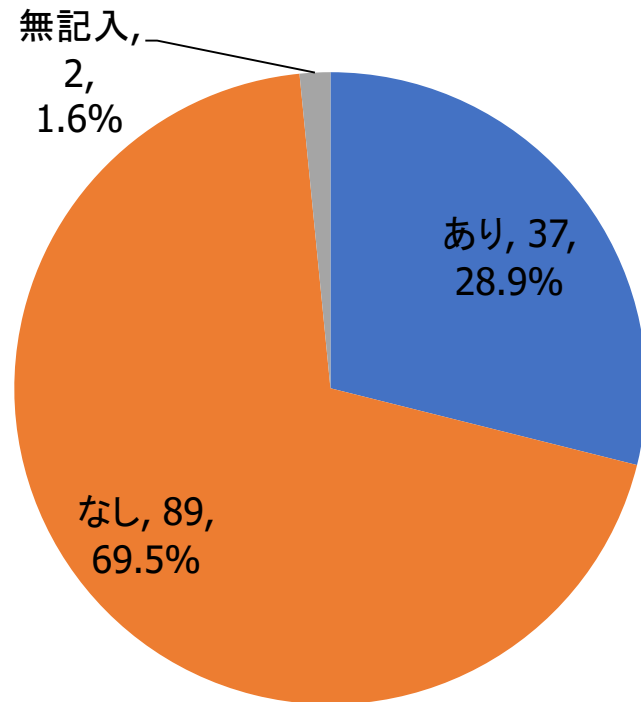
# 性別

# 年代

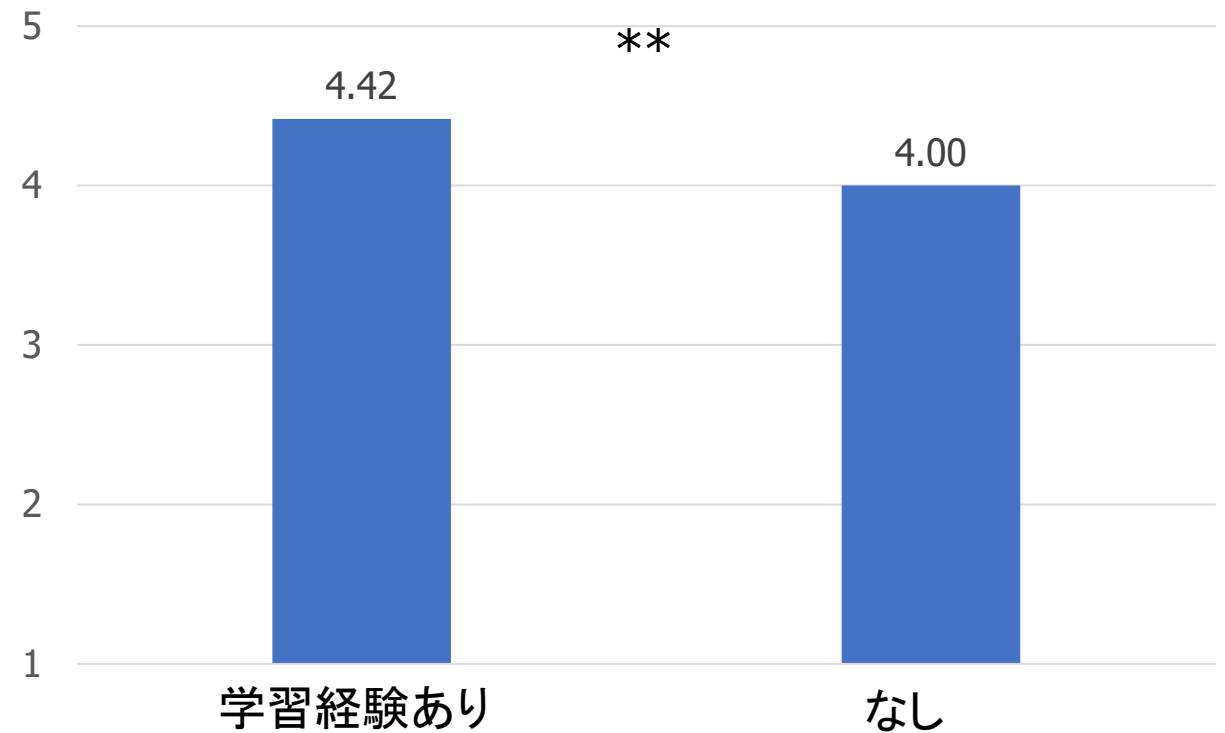


# 学習経験の有無

# 学習経験の有無 × 資格



# ファッションへの関心の程度

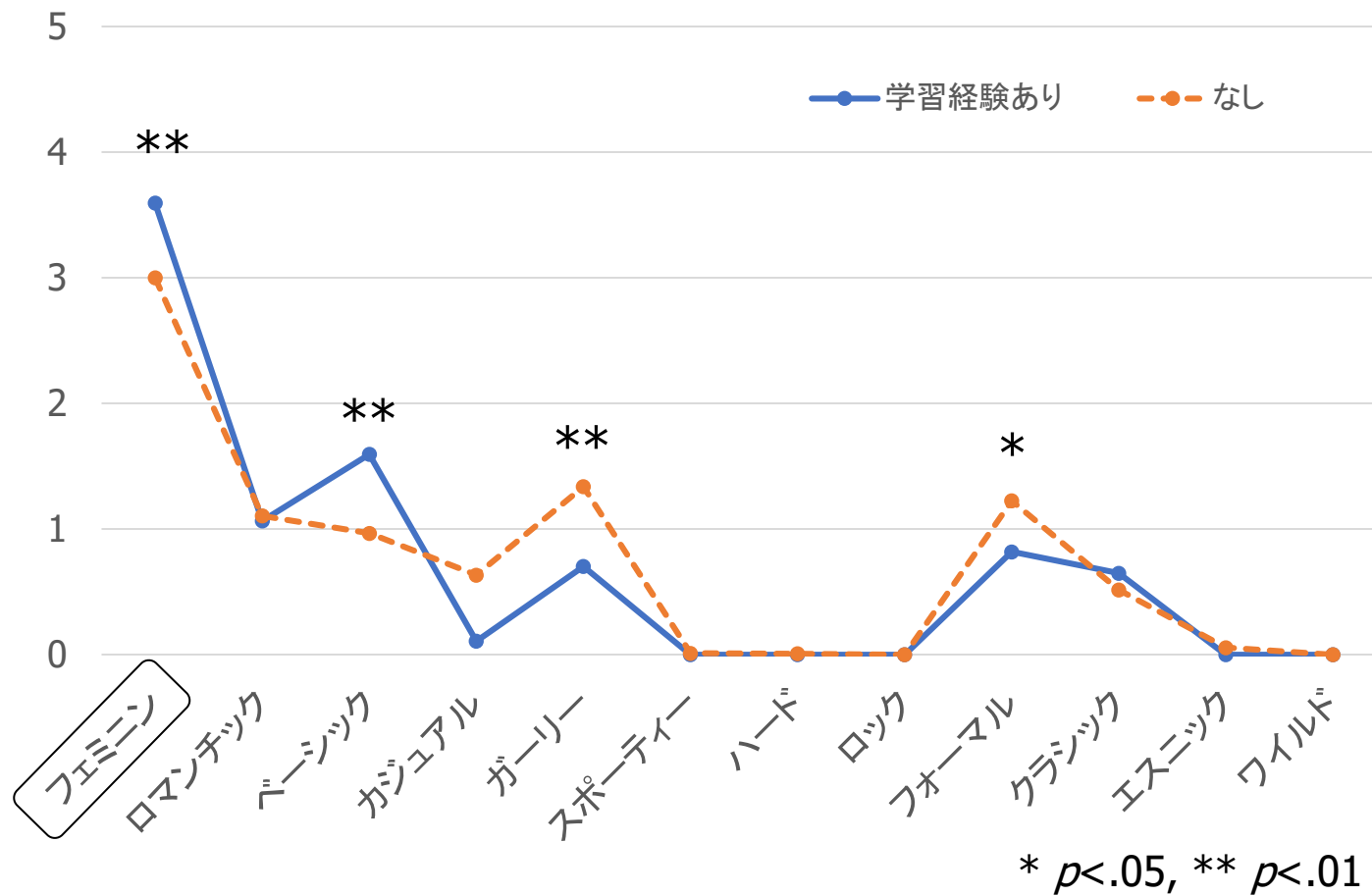


\*\*  $p < .01$

# 学習経験の有無によるスタイリングごとの比較

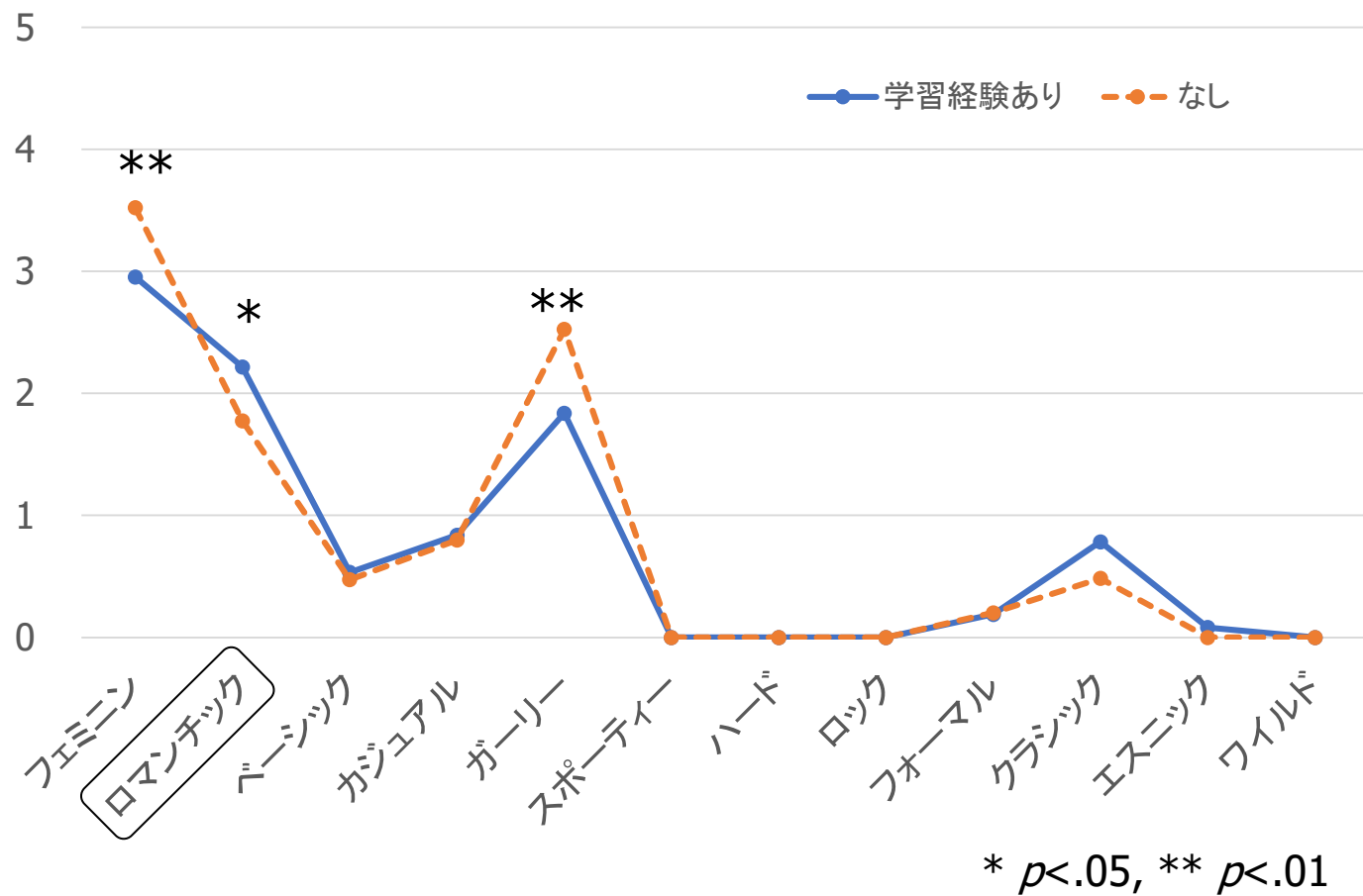
- グラフの縦軸の意味
  - (イメージを最もよく表すワード、2番目によく表すワード、3番目によく表すワードを選択させ、さらにそれぞれの要素が含まれる程度を1~5の5段階で判定させた)
  - (したがってイメージを表すものとして選ばれないワードもあるが、それらは選ばれたワードと区別するために0として計算した)
- グラフ中の記号の意味
  - 学習経験の有無の2群間で数値に差があった場合に、その差が誤差や偶然で生じる確率が...
    - 10%未満、つまり学習経験が影響しているかもしれない(+  $p < .10$ )
    - 5%未満、つまり学習経験が影響している可能性がある(\*  $p < .05$ )
    - 1%未満、つまり学習経験が影響している可能性が高い(\*\*  $p < .01$ )

# 「フェミニン」のイメージ

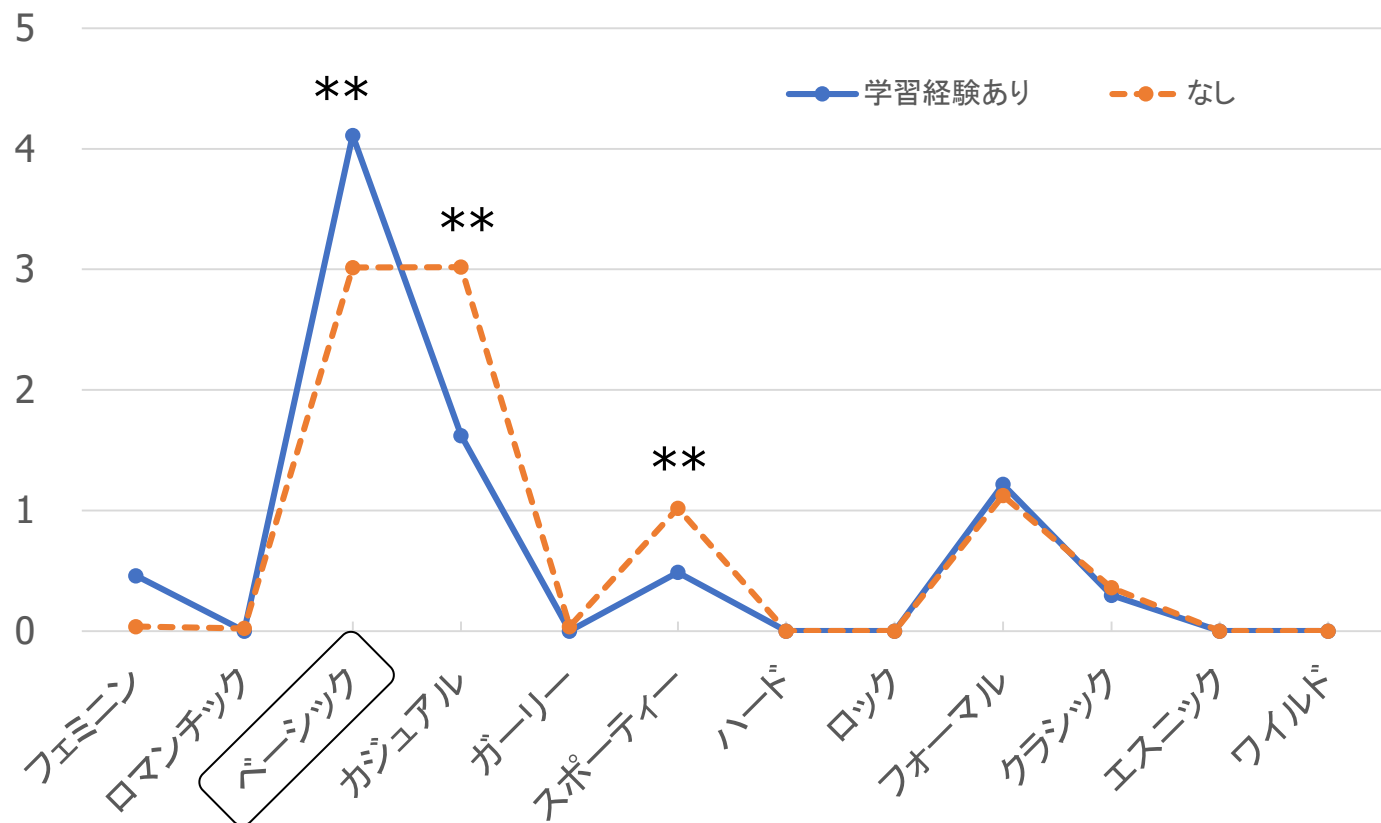


(「繊維製品消費科学」65(3)  
p.216-222, (2024)掲載の図  
を修正; 以下同)

# 「ロマンチック」のイメージ



# 「ベーシック」のイメージ

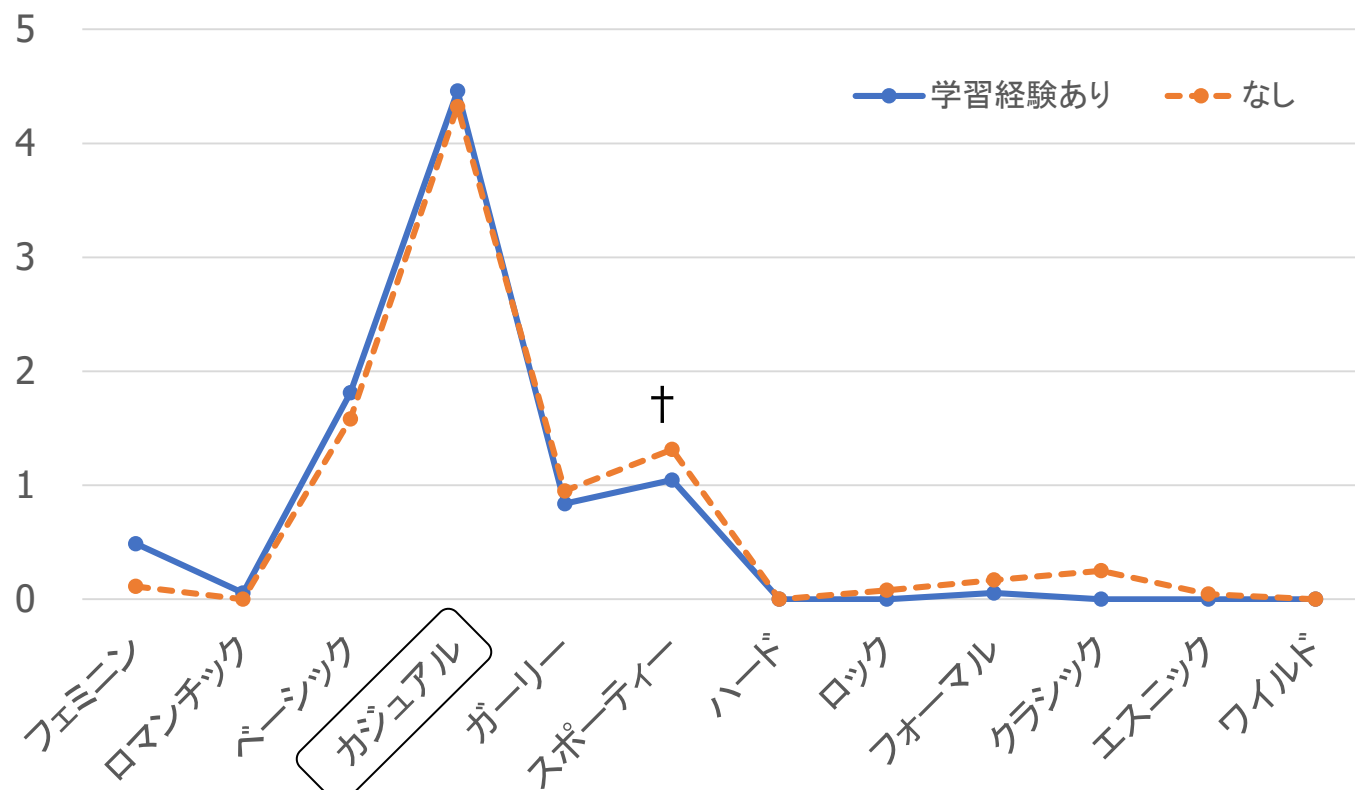


\*\*  $p < .01$





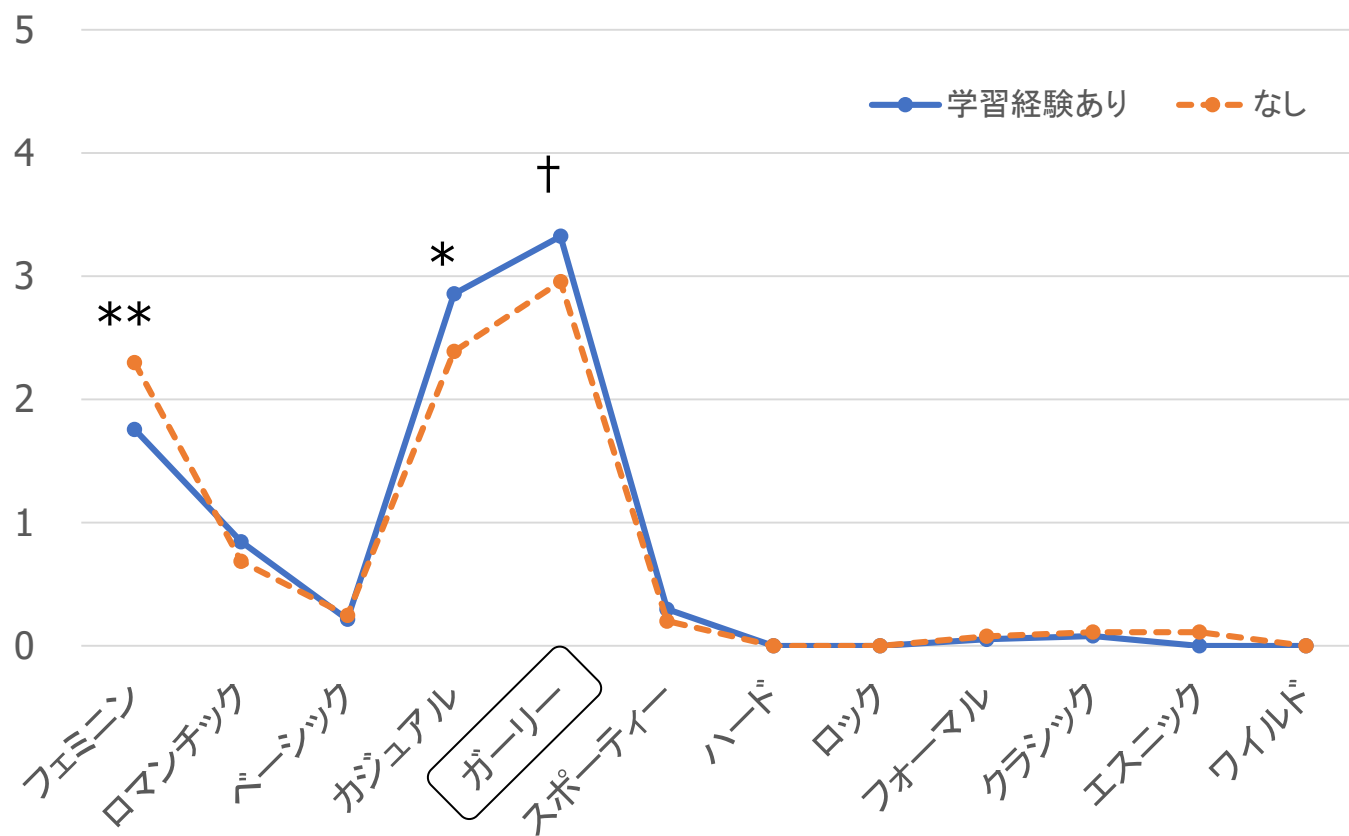
# 「カジュアル」のイメージ



†  $p < .10$



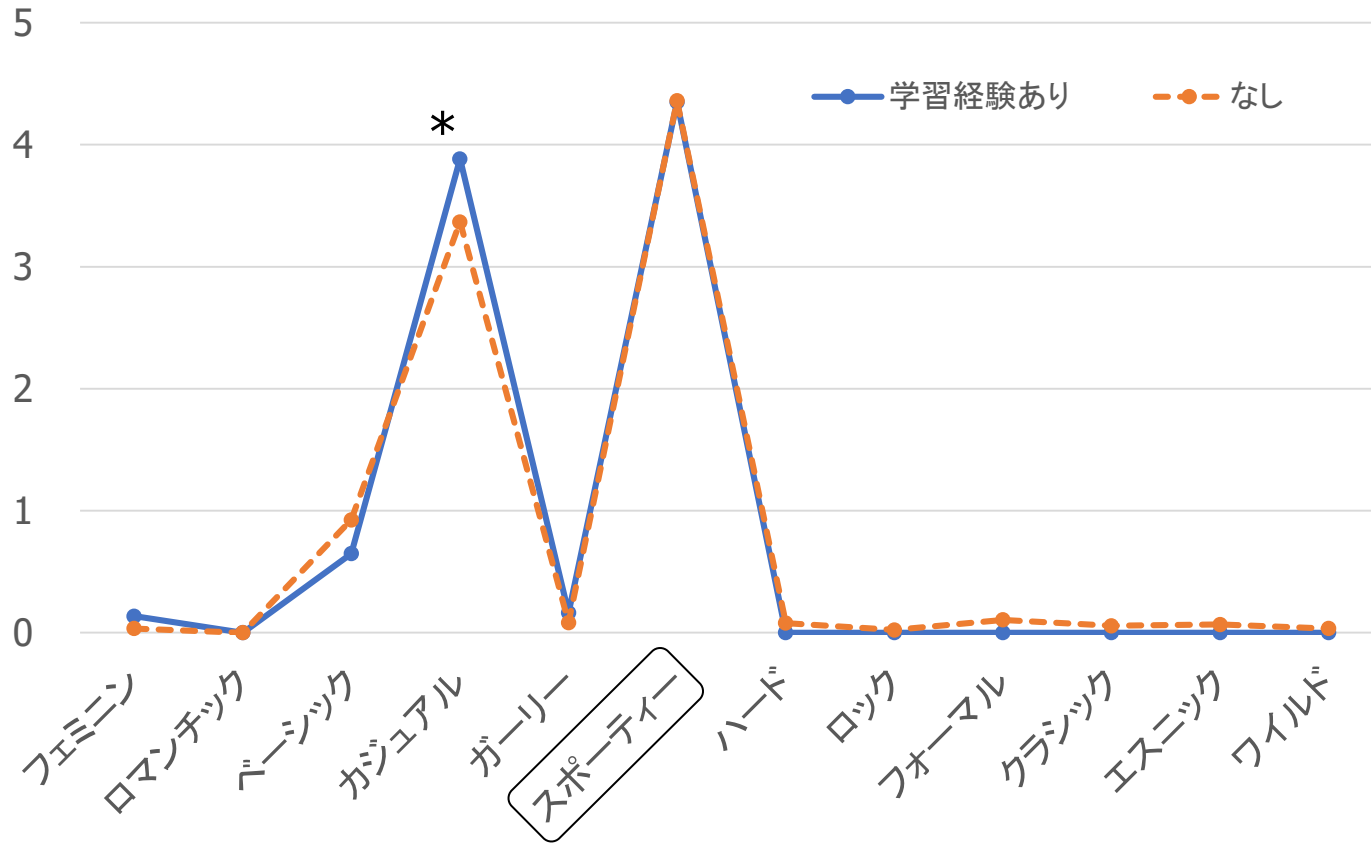
# 「ガーリー」のイメージ



†  $p < .10$ , \*  $p < .05$ , \*\*  $p < .01$



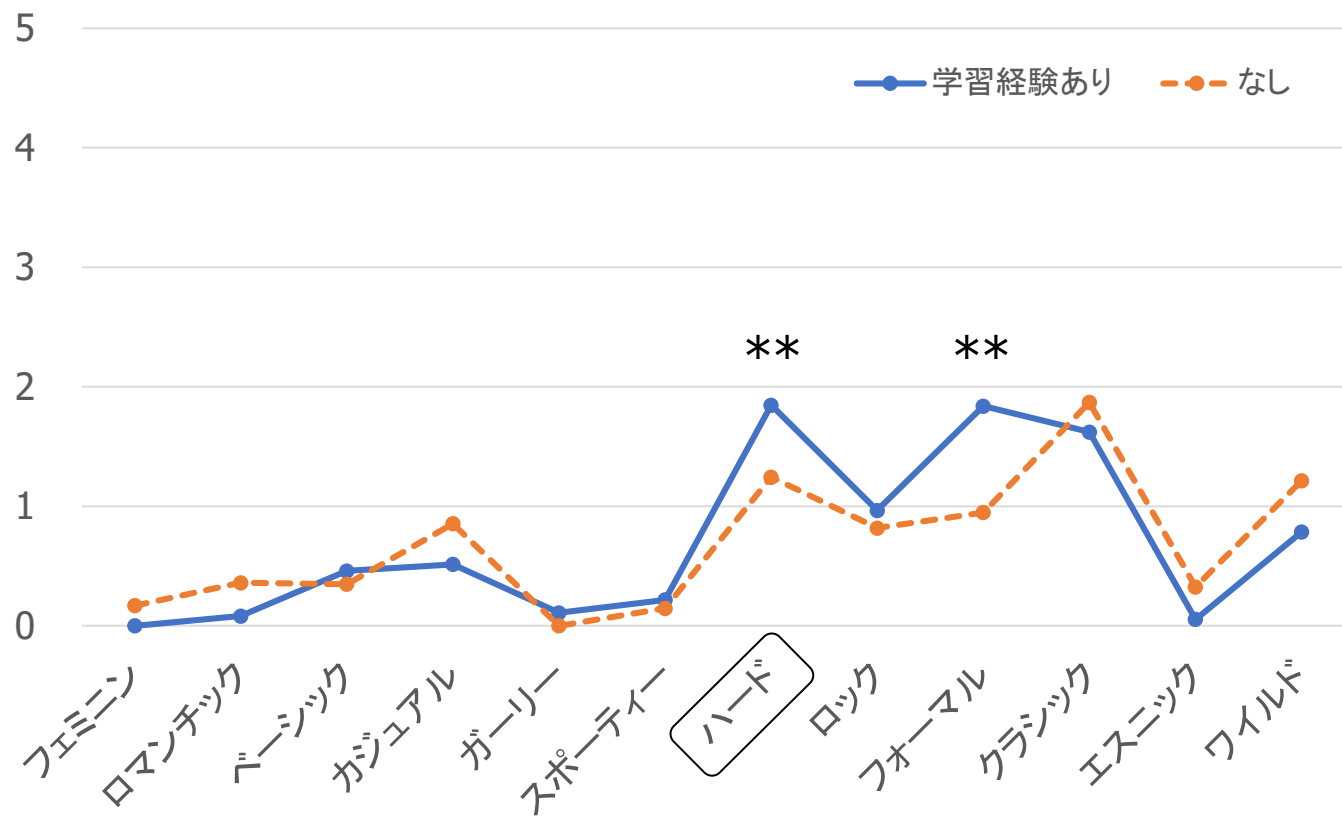
# 「スポーティー」のイメージ



\*  $p < .05$



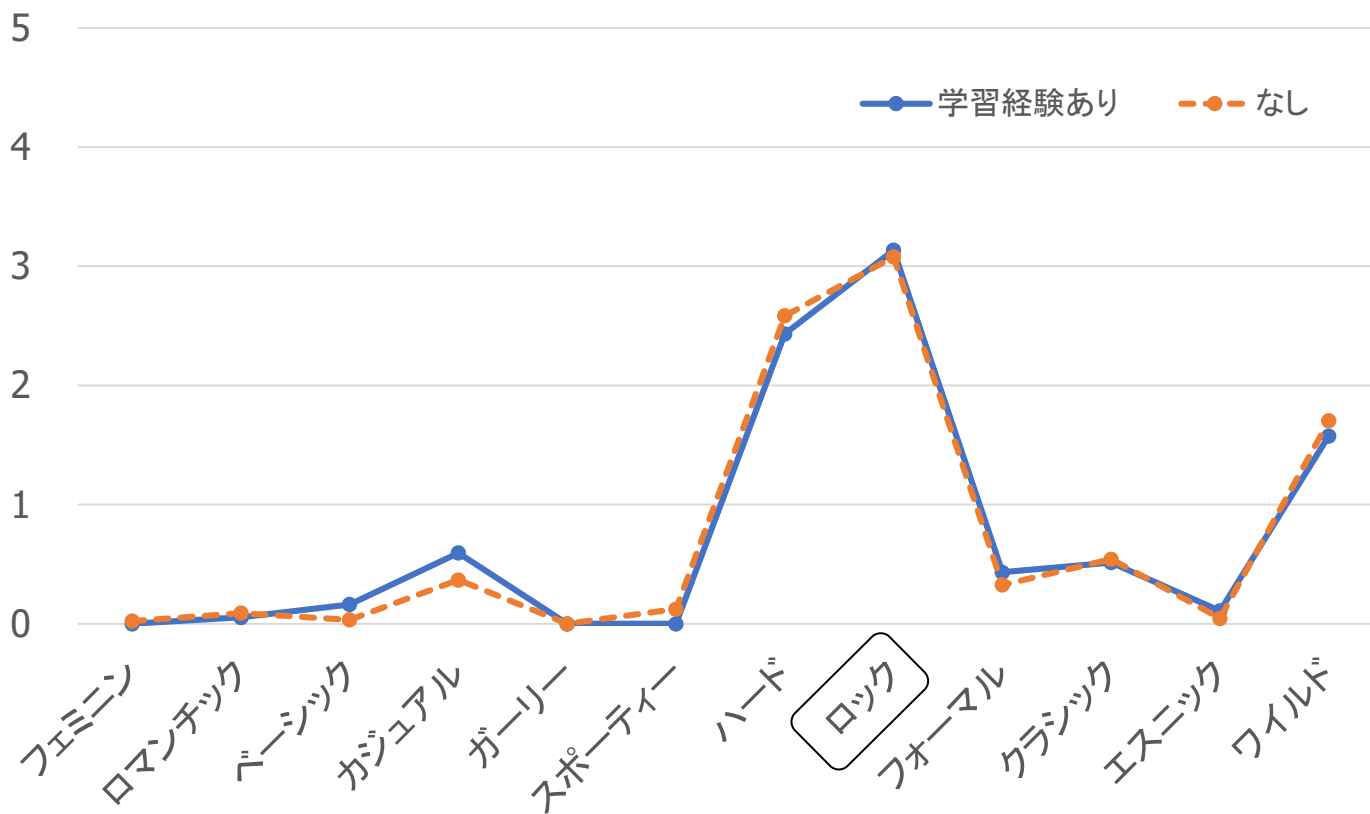
# 「ハード」のイメージ



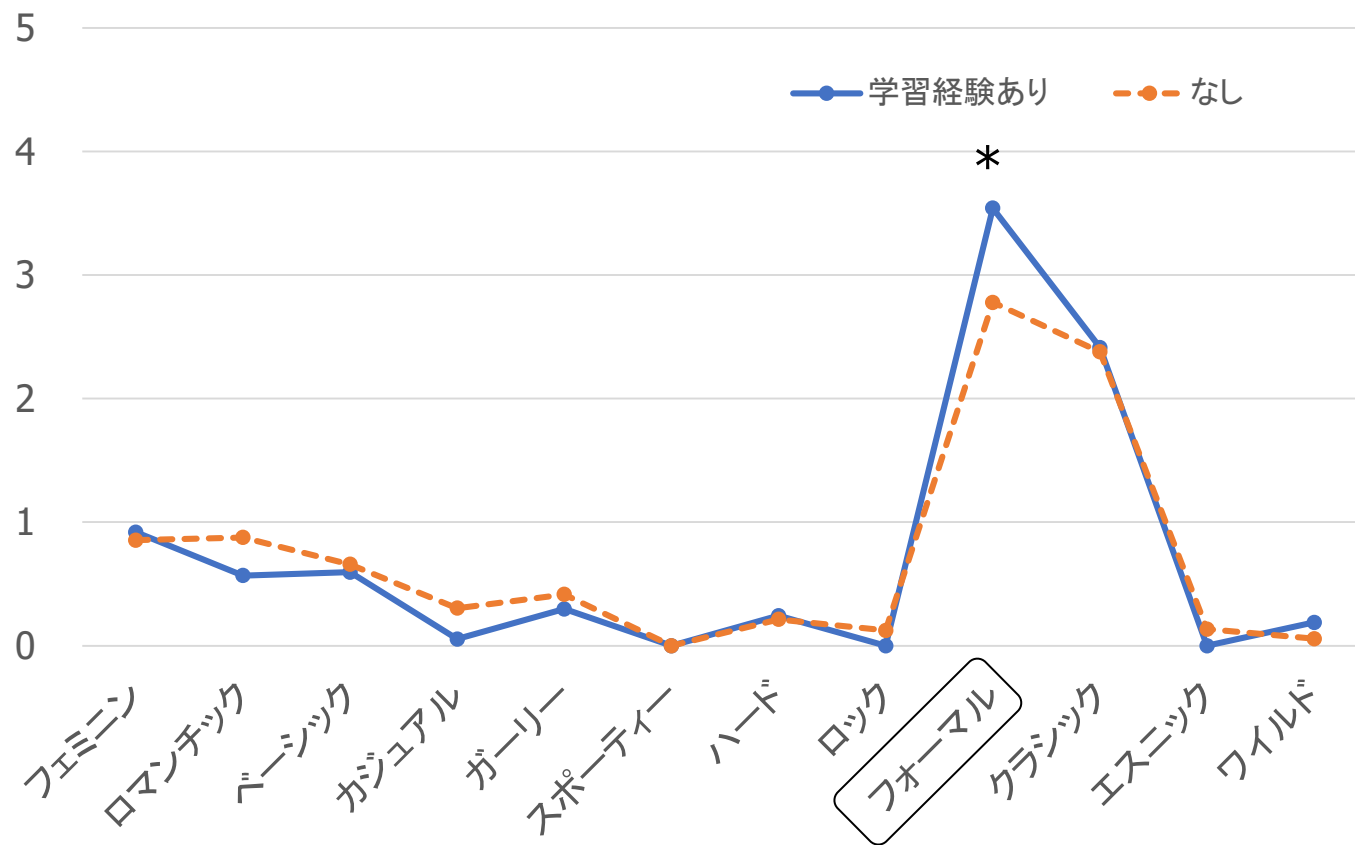
\*\*  $p < .01$



# 「ロック」のイメージ



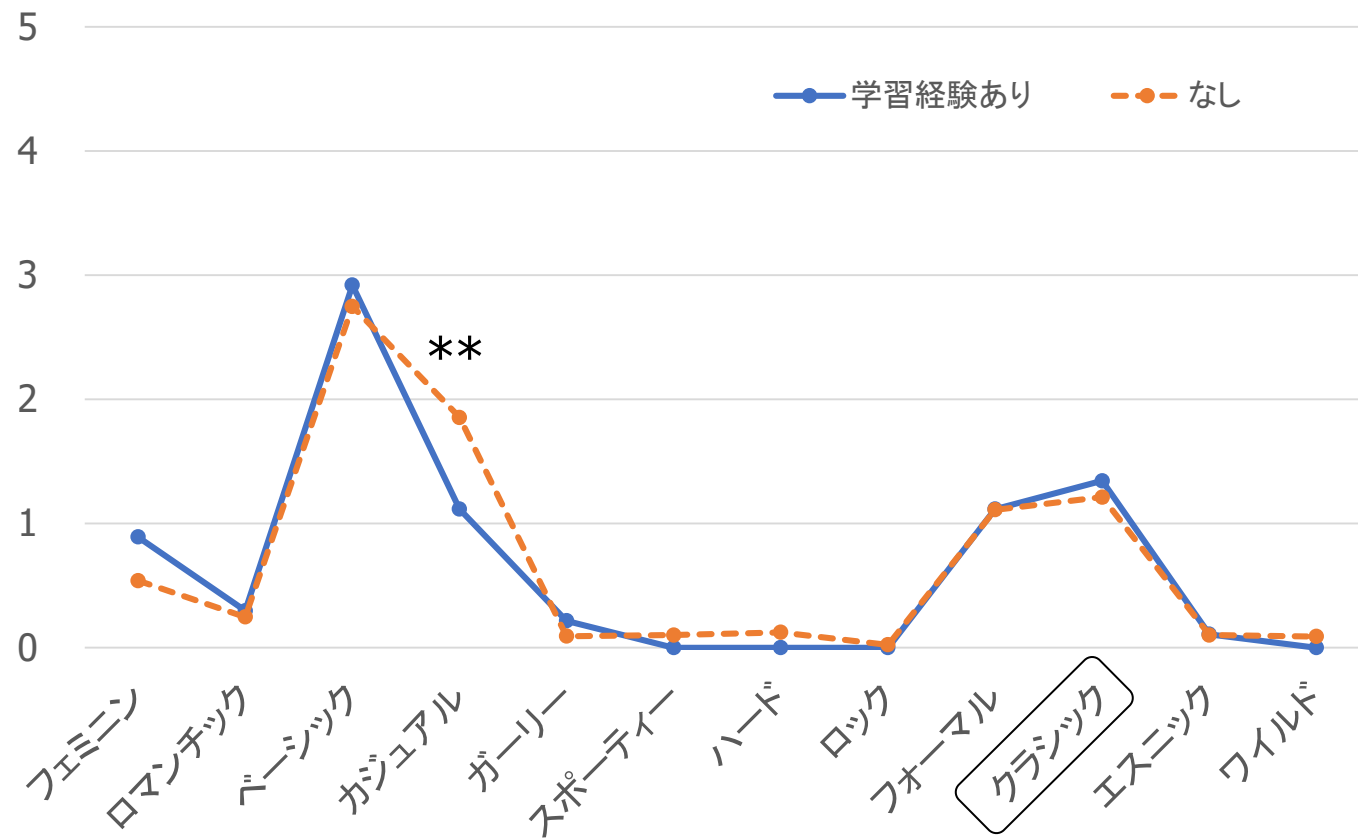
# 「フォーマル」のイメージ



\*  $p < .05$



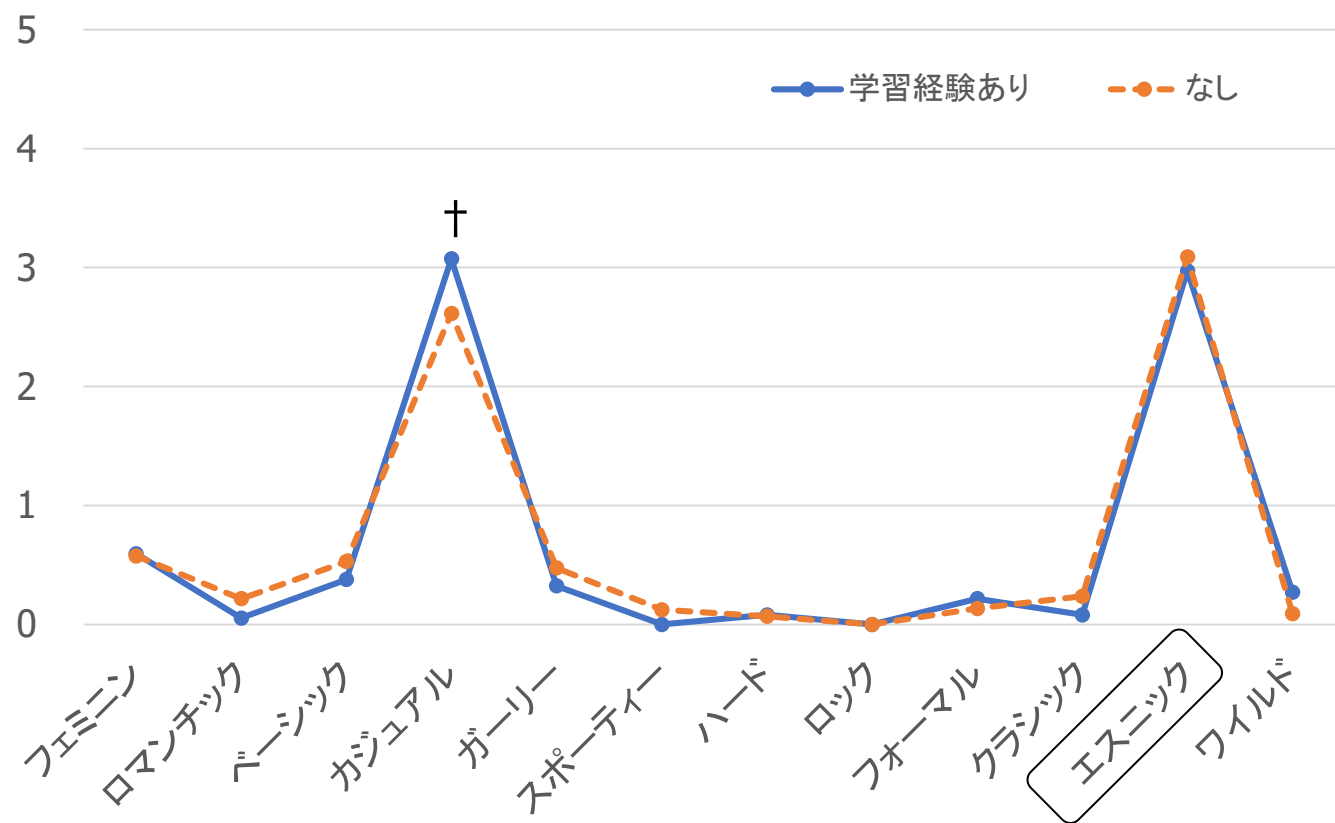
# 「クラシック」のイメージ



\*\*  $p < .01$



# 「エスニック」のイメージ

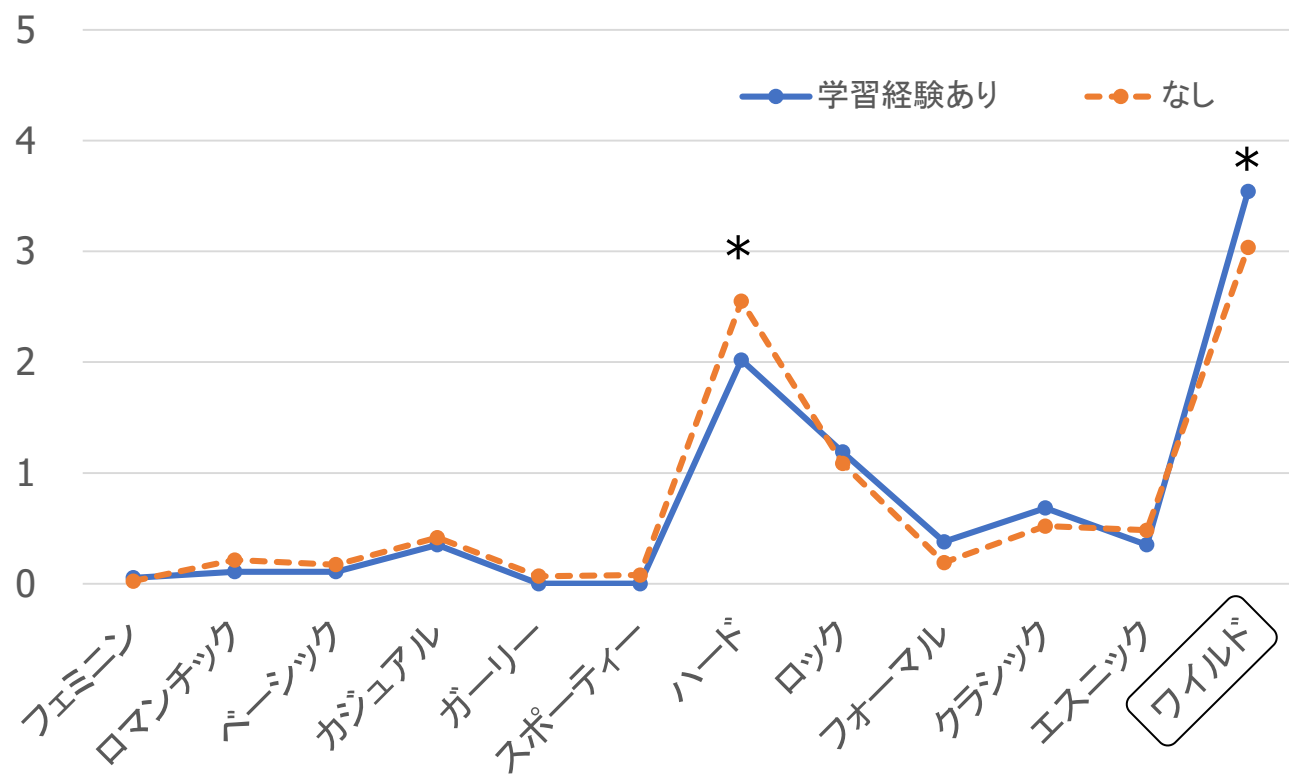


†  $p < .10$





# 「ワイルド」のイメージ



\*  $p < .05$







## 5. 考察

### ■ 仮説

- 学習経験の有無により、スタイリングイメージの判定の仕方が異なるのではないか
  - →仮説通り、異なった
- ただし詳細にみると、学習経験の有無によって判定の傾向が異なるもの、似ているもの、違いがないものの3パターンに分けられた

- 判定パターン①: 違いがあるもの  
(フェミニン、ベーシック、ハード、ワイルド)
  - →学習群と非学習群とでは異なるパターンのイメージとしてとらえられている
  - →着目するポイントやその解釈が異なる可能性がある
  - 非学習群の一般の人々は、ファッションに関心があったとしても自身の関心や生活範囲のみで主観的であるため、個人によって差があり判定が人によってばらつく可能性あり
  - 学習群は専門的に学んでいるため、各イメージの特徴やポイントを知っている(共通している)

- 
- 判定パターン②: 似ているもの  
(ロマンチック、ガーリー、スポーティー、フォーマル、クラシック)
    - 専門家が意図したガーリー、フォーマルなどのイメージワードにおいて非学習群よりも統計的に有意に高く判定
    - →学習群は専門家の意図を的確に理解している

- 
- 判定パターン③: 違いがないもの  
(カジュアル、ロック、エスニック)
  - イメージワードのパターンにおいても判定の数値においても、学習群と非学習群とで差が見られなかったもの



## 6. 結論

- スタイリングの学習経験の有無によって、スタイリングイメージの判定が異なった
- つまり、スタイリングイメージの判定には、学習経験が影響している
- → スタイリングを学んでいる人々は、一般の人々よりも(専門家が行った)スタイリングのイメージを認識できることが示された